

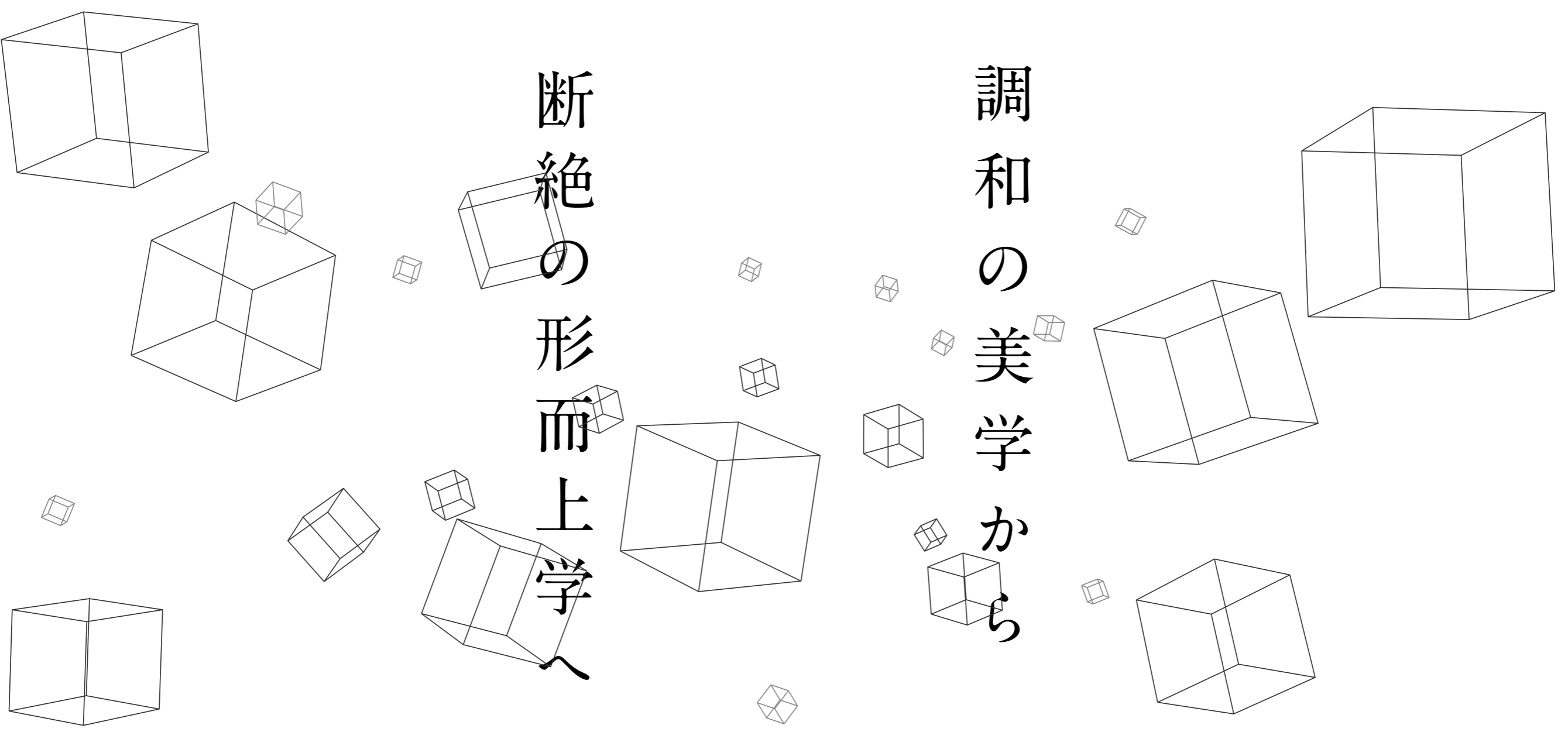
調和の美学から

断絶の形而上学へ

2020年7月28日

「形・プレイ」レクチャー

発表者：飯盛 元章



発表者について

🐦 @lwrtdhtw

飯盛 元章

- 中央大学文学部兼任講師（中大の大学院哲学専攻卒）
- 学部は、早稲田大学第二文学部表現・芸術系専修
- 専門は、A・N・ホワイトヘッド、G・ハーマンの形而上学
- 『連続と断絶—ホワイトヘッドの哲学』（人文書院）



Amazon在庫切れ。人文書院のサイトから送料無料で直接購入できます。

飯盛元章
人文書院

闇の形而上学へ
孤高の哲学者アルフレッド・ノース・ホワイトヘッド。事物の有機的連続を重視し、恐るべき密度と宇宙的壮大さを併せ持つその思想は、長らく哲学界の傍流であった。しかし、現在、思弁的実在論、オブジェクト指向哲学など、21世紀の思想潮流のなかで再び注目されている。本書は、これまで事物の連続性が重視されてきたホワイトヘッド哲学に、存在の深き断絶の契機を見出し、ハーマン、メイヤースーとの比較をふまえて、その哲学の全体性と独自性を描き直してゆく。光も届かぬ存在の彼方、想像力の彼方、宇宙の彼方へと哲学を導く、闇の形而上学の誕生。

発表構成

Part I 調和の美学

ホワイトヘッド形而上学の基本事項をざっくり確認。そのうえで、『観念の冒険』第4部を参照し、ホワイトヘッド形而上学における美や芸術の位置づけを確認する。ホワイトヘッドが描くのは、ゴシック建築のように諸部分が相互に関係しあい、全体の調和が保たれた宇宙像である。

Part II 断絶の形而上学

ホワイトヘッドが描く連続的で調和的な宇宙を引き裂く断絶的な要素について考察。4つの断絶を見出すことができる（拙著『連続と断絶』のダイジェスト）。

有料のレクチャーであったため、「発表構成」のみ公開します。